

# 接ぎ木栽培における多収性ピーマン台木「試交31号」の育成

「みやざき台木5号」より収量性に優れ、青枯病・2系統の線虫に抵抗性を有する

## 背景・目的

- ピーマン産地では土壌病害対策の1つとして土壌病害抵抗性台木が利用されています。
- 台木利用（接ぎ木栽培）においても、自根と遜色ない多収性の台木が求められています。
- 線虫抵抗性台木「みやざき台木5号」等を加害する線虫（打破系線虫）被害が確認されています。
- そこで、青枯病・2系統の線虫に対して抵抗性のL<sup>3</sup>型の多収性台木「試交31号」を育成しました。

## 成果の内容

- 生育は「みやざき台木5号」利用と概ね同等で、収量性は「みやざき台木5号」利用より高い（図1）。
- 青枯病に対して、市販台木「台助」等と同程度の抵抗性を有しています（データ略）。
- 2系統のサツマイモネコブセンチュウ（普通系線虫、打破系線虫）に対して抵抗性を有しています（図2）。

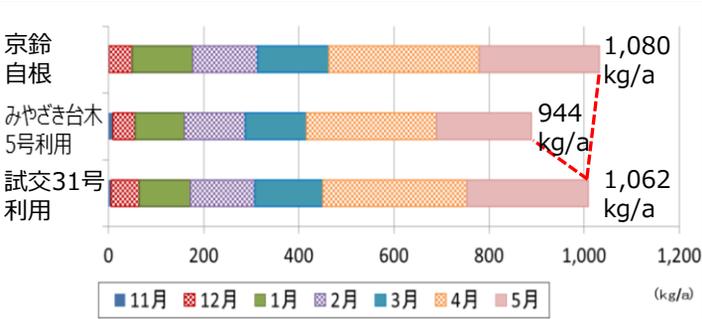


図1 接ぎ木栽培（促成栽培）における月別可販果収量（※穂木は「京鈴」）

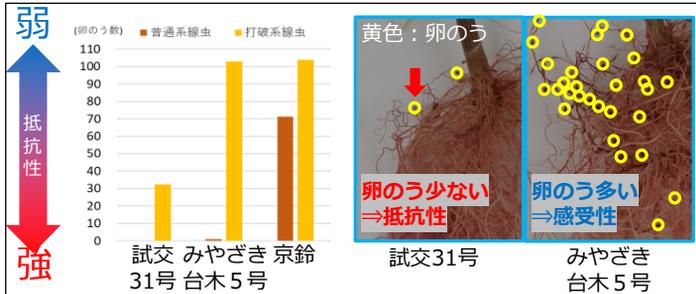


図2 2種類の線虫に対する平均卵のう数（左）と打破系線虫\*接種検定において根に着生した卵のう（右）  
\*打破系線虫・・・線虫抵抗性台木「みやざき台木5号」等を加害する線虫

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 青枯病・打破系線虫被害ほ場において、「試交31号」を利用することで、試算では、青枯病・打破系線虫被害の回避により、「京鈴」自根に比べて26ポイント増収することができます（図3）。

区分	被害なしほ場		青枯病被害ほ場		青枯病・打破系線虫被害ほ場	
	収量指数	(収量)	収量指数	(収量)	収量指数	(収量)
京鈴自根	100	(1,080kg/a)	80	(864kg/a)	72	(778kg/a)
みやざき台木5号利用	87	(944kg/a)	87	(944kg/a)	79	(850kg/a)
試交31号利用	98	(1,062kg/a)	98	(1,062kg/a)	98	(1,062kg/a)

注：青枯病による減収を2割、線虫による減収を1割とした場合の、台木利用による減収回避の試算。26ポイントUP!!

図3 青枯病による減収を2割、線虫による減収を1割とした場合の、台木利用による減収回避の試算

（※被害なしほ場における収量の数字は図1に準じ、収量指数は京鈴自根の収量を100としたときの数字の変化を示す）

- 普及対象地域・面積 県内促成<sup>レ</sup>・マン・カ<sup>レ</sup>・マン産地約220haのうち青枯病・打破系線虫被害ほ場

## 留意点

- 青枯病・線虫対策として、本台木のみならず太陽熱処理・薬剤処理等と合わせて利用ください。
- 現場にて、自根や他台木利用と小規模で比較し、本台木の利点を検討した上で、本格導入してください。
- 「台ひなだ」という名称で、種苗登録申請を実施しました。（品種登録出願：第35966号、2022年1月17日）
- 本品種の育成は、宮崎総農試、南九州大および農研機構野花研の共同研究「青枯病・疫病・線虫に複合抵抗性の台木用トウガラシ品種・系統の育成」により行いました。